

第2期宮城県スポーツ推進計画の基本的方向性について

1 国の第3期スポーツ基本計画(R4~R8)に向けた構造案 (R3.11.未現在)

～ **スポーツが変える。未来を創る。Enjoy Sports, Enjoy Life** ～
 (1)スポーツで「人生」が変わる！ (2)スポーツで「社会」を変える！
 (3)スポーツで「世界」とつながる！ (4)スポーツで「未来」を創る！

第2期基本計画で提示されている「中長期的なスポーツ政策の基本方針の考え方」は、第3期基本計画においても踏襲される。

3つの新たな観点を重視

①「する」「みる」「ささえる」
 スポーツ参画人口の拡大
**+スポーツを
 「つくる／はぐくむ」**

障がい者・女性・子ども・高齢者等多様な主体におけるライフステージに応じた身近なスポーツ機会の創出

②様々な立場・状況の人が、
「ともに」活動し、「つながり」を感じながらスポーツを楽しめる社会の実現

スポーツを通じた共生社会の実現（誰もがスポーツをしやすい環境の創出）

③**全ての人**がスポーツにアクセスできる社会の実現や機運の醸成

性別、年齢、障がいの有無、経済的事情にかかわらず、スポーツの価値を感じられる

「東京オリンピック・パラリンピック開催」、「新型コロナウイルス感染症の拡大」を受けて 明らかとなった『**スポーツの価値**』の再確認

(1)「スポーツ自体が有する価値」
 「スポーツ」を、心身の健全な発達、健康・体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心等の精神の涵養等の目的・意図を持って、自発的に取り組む身体活動と捉え、人々がこうした活動を楽しみながら、親しみながら取り組むこと自体に価値がある。

(2)「スポーツが社会活性化等に寄与する価値」
 「スポーツ」は、スポーツ基本法前文も踏まえ、「地域社会の再生」「健康で活力に満ちた長寿社会の実現」「国民経済の発展」「国際相互理解の促進」等の社会活性化・課題解決に寄与することに価値がある。

今後5年間、これらの価値を更に発揮するための具体的な施策の項目案

- ①多様な主体におけるスポーツの機会創出
- ②国際競技力の向上
- ③スポーツ界におけるDX推進
- ④スポーツの国際交流・国際貢献

- ①成長産業化
- ②健康増進
- ③地方創生・まちづくり
- ④共生社会の実現

2 現行の宮城県スポーツ推進計画の成果と課題

◎理念◎ スポーツを通して活力と絆のあるみやぎを創ろう

◎目指す姿◎ 県民一人ひとりが様々な形でスポーツを楽しみ、家族や地域社会が強い絆でつながり、東日本大震災を乗り越え、活力に満ちた幸福で豊かなみやぎ

◎キーワード◎ 【夢・感動・元気】、【スポーツを活かしたまちづくり・ひとづくり】、【新たなスポーツ文化の確立】

◎基本姿勢◎ 1 県民が主体となるスポーツの推進 2 連携と協働 3 役割の明確化 4 みやぎの特色を活かす

施策の柱	目標	基本方向	成果と課題等
I 生涯にわたるスポーツ活動の推進	<p>○県民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも、性別や障がいの有無を問わず、安全にスポーツを「する」「みる」「支える」活動を推進していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの体力が全国水準を上回る ・成人の週1回以上のスポーツ実施率が3人に2人（65%程度）週3回以上のスポーツ実施率が3人に1人（30%程度）年1回以上のスポーツ実施率の増加 	<p>【子どものスポーツ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康な身体づくりと体力・運動能力向上推進 ・子どもの遊ぶ（身体活動）機会の創出 ・子どもがスポーツを「みる」「支える」機会の創出 ・学校体育の充実 ・運動部活動の充実 <p>【働く世代のスポーツ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活における身体活動の奨励 ・スポーツ活動機会の創出と交流の推進 <p>【高齢者のスポーツ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康づくり活動の推進 ・スポーツ活動機会の創出と交流の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの体力は、年度によっては全国水準を上回る種目もみられたが、下回る傾向の方が多かった。記録の下がり幅は緩やかになっており、全国水準は下回っているものの、<u>全国水準との差は縮まっている。</u> ・スポーツ実施率（週1回以上）は微増しているが、「行っていない」割合が増加し、<u>二極化が見られる。</u> ・子育て世代、働く世代での実施率は低いが、「<u>条件を整えば実施したい</u>」という意欲は高い。 ・「<u>地域との交流が希薄</u>」になっており、地域のスポーツ行事への参加率は減少している。
II 競技力向上に向けたスポーツ活動の推進	<p>○ジュニア期からの一貫した強化体制を構築していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国体総合成績10位台の維持 ・ユースオリンピックにおける本県選手の輩出 ・オリンピック・パラリンピックにおける本県出身のメダリストの輩出 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際的なスポーツ大会・国体等で活躍できる人材の育成 ・競技活動を支える体制の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・国体における総合成績は、平成23年以降は<u>20位以下と低迷が続いている。</u>（令和2・3年は中止） ・ジュニア期のスポーツタレント発掘・育成事業では、全国大会出場選手や入賞選手、ユースオリンピック出場選手が出るなど、<u>国内外で活躍する選手が育っている。</u>
III スポーツ活動を支えるための環境づくりの充実	<p>○県民が主体となった地域のスポーツ環境を整備していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合型地域スポーツクラブの県内全市町村への設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のスポーツ環境の充実 ・広域スポーツセンター機能の充実 ・総合型地域スポーツクラブの創設・育成支援 ・指導者等の育成と連携 ・スポーツボランティアの育成と支援 ・表彰制度の拡充 ・スポーツを支える組織の強化 ・スポーツ安全に関する情報分析・研究及び成果の活用 ・スポーツ観光の推進とスポーツ大会の誘致 ・身近なスポーツ施設の充実 ・プロスポーツや企業・大学と地域のスポーツの好循環 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合型地域スポーツクラブは、現在25市町に設置され、<u>53クラブが活動している。</u>（設置率71.4%） ・総合型地域スポーツクラブの認知度は低いが、今後の取組や支援によっては<u>地域振興・再生の一助となる可能性</u>がある。 ・地域における<u>スポーツ指導者が不足している。</u> ・<u>スポーツ関係団体の高齢化、脆弱化が著しい。</u> ・障がい者スポーツは、認知度は高まっているが、<u>環境整備が追いついていない。</u> ・プロスポーツでは、試合開催時の本県観光PRや地域の子ども達を対象としたスポーツ教室、指導者講習会の開催など<u>連携した事業が行われた。</u>

3 第2期宮城県スポーツ推進計画(R5～R14)

★新・宮城の将来ビジョン★ 富県躍進！“PROGRESS Miyagi” ～多様な主体との連携による活力ある宮城を目指して～

私たちが目指す10年後の姿は、震災からの復興を成し遂げ、民の力を最大限に生かした多様な主体の連携により、これまで積み重ねてきた富県宮城の力が更に成長し、県民の活躍できる機会と地域の魅力にあふれ、東北全体の発展にも貢献する、元気で躍動する宮城です。そして、県民一人ひとりが、安全で恵み豊かな県土の中で、幸福を実感し、いつまでも安心して暮らせる宮城です。

スポーツの振興により目指す宮城の姿

誰もが気軽にスポーツに親しみ、健康で充実した生活を送ることができるとともに、関わり方や楽しみ方が多様化し、スポーツを通じた様々な交流が県内各地で行われています。

① スポーツによる健康増進

- ◎多様な主体におけるスポーツ参画人口の増加
 - ・子どもの運動・スポーツ機会の充実と体力向上
 - ・女性、働く世代のスポーツ機会の創出
 - ・高齢者のスポーツ機会の充実
- ◎スポーツを支える環境の整備
 - ・スポーツ施設等のスポーツに親しむ場の確保
 - ・スポーツに関する情報発信の充実
 - ・DXの推進による新たなスポーツの価値の創出



② スポーツによるまちづくり

- ◎地域のスポーツ活動を支えるネットワーク構築
 - ・総合型地域スポーツクラブの質的充実
 - ・スポーツ推進委員、スポーツ団体等との連携促進
 - ・地域部活動の推進
- ◎スポーツの持つ力を生かした地域活性化
 - ・プロスポーツチームと地域スポーツの連携促進
- ◎スポーツによる交流人口の増加
 - ・スポーツツーリズムの推進



◎ 目指す姿 ◎

全ての県民がライフステージに応じてスポーツに親しみ、ともに活動することで、「人與人」「地域と地域」のつながりを感じ、スポーツの価値を共有しながら夢と希望に満ちた活力あるみやぎ

③ スポーツによる共生社会の推進

- ◎障がい者スポーツの普及促進
 - ・障がい者スポーツの理解促進
 - ・障がい者スポーツを総合的に振興する体制の整備
- ◎スポーツによる生きがい・居場所づくり
 - ・地域スポーツ推進拠点の整備



④ スポーツによる感動の創出と誇りの醸成

- ◎競技スポーツの推進とアスリートの育成・強化
- ◎東京オリ・パラ大会のレガシー継承
- ◎スポーツを支える人材の育成
 - ・地域の指導者、専門性の高い指導者の育成支援
- ◎クリーンでフェアなスポーツの推進による、スポーツの価値の向上

